

高七、一〇、  
調整号

## 一、近づくアジア大会

アジア大会を二十四日に控えて羽田空港はアジアの参加国十九カ国の選手団がぞくぞく到着、大賑わい。

一方東京の室内プール場では最後に残った水泳選手の代表を決める予選会が開かれ、山中、石本等のメルボルン・オリンピック組は強豪ぶりを発揮しました。

こうして十三日には東京体育館で秩父宮妃殿下をお迎えして、代表選手団の結団式が開かれました。

又国際オリンピック委員会のブランデーシ会長の前もみられました。こうして準備は完了、いよいよアジア大会の開幕を待つばかりとなりました。

## 一、赤い広場の祭典

五月一日モスクワの赤い広場では、恒例の華かなパレードがくりひろげられました。この一年、人工衛星の成功など、めざましい進歩をみせたソビエトですが、早くもフルシチョフ首相への批判が高まり、再燃したユーゴとのあつれきは、今共產圏の中に大きな波紋を呼んでいます。

この日北京の人民広場でも、お坊さんや尼さんまで含めて華かなメーデー行進が行われました。

最近の中国はフルシチョフ批判や、ユーゴ攻撃の中心を占めているように共產圏の中では押しも押されぬ大国です。

## カメラ・スケッチ

## 一、選挙参謀

泣いても笑つてもあとわずか。選挙戦もいよいよ終盤戦にはいり各地で激しい星争いが演じられています。

ところで必勝のカギを握るのは何んといつても参謀格の事務長です。前戦から台所の賄いまでこの一戦を預かる事務長は、全軍を指揮してシッタゲケレイしています。

また繁華街に進出した保守派の移動選挙事務所では、地図にヒタイを集めて作戦をリード、そして映画女優の御足労をいただいて浮動票を狙うなど、事務長さんの演出もよくしく追込作戦は相手がこんできたようです。

## 一、帰れぬ渡り鳥

### —愛鳥週間に—

ナベツルの渡来地として知られる山口県熊毛町八代に、心ない猟師のいたずらで片足を奪れたツルのヒナドリが残されました。

町の公民館の所長さんがツルの義足をつくつてやれば、街の子供達は皆んなで手分けして毎日ツルの餌となるタニシ、ドジョウをすくいにゆくなど、街の人達の温い保護をうけています。

一方白鳥の越冬地として有名な青森県の下北半島に、ひなの白鳥が羽を傷めて飛べずただ一羽残されていました。

長い冬の間唯一の慰めとなつてくれるきれいな白鳥のこととて地元のアマチュアも懸命に手当をしています。

心ない人の噂の多い時明るい二つの話題を、バードウィークにちなんで南と北に訪ねました。

194 製作配給 東京中日新聞、177 中部日本ニュース映画社 146